

**NG...** ハの字に装着 **GOOD!** タイヤと平行に装着

車輪止めの装着は危険物を運ぶ時以外は法定外なんだ

また、その他の商品を運ぶ会社では、装着方法のルールが違うし、取り組みの差が如実に表れるんだ!

そうか!

**悪い例**

**「足元」から!**

足元を見られても大丈夫なように!

×丈が合っていない (裾を踏んで転倒の危険)

×窓から足を出す (ハンドルに足を乗せる (イメーシダウン))

○服装はジャストサイズ! (さわやかで好印象)

気を抜いて足をすくわないように!

車輪止めの脱着時も、面倒くさからず手で装着をする!

車輪止めの装着位置は会社により異なります。

すると、タイヤの外観確認も同時にできるんだ!

ローフをドアノブに掛ければ車輪止めの外し忘れ防止ですね!

私もプロとして「足元」にもこだわるドライバーになります!

道のりはまだ遠いな...

よーし

第10話 **オシャレも安全も「足元」から**

私、今日からトラックドライバーになります!

銭瀬小陽 (22)  
新年を迎え、一年の安全を誓う。最初はこんな様子にワクワク!

うわーっ

株式会社サンライズ運送

カラフル〜

全国から集まったトラック!

カッコよくて壮観!

年末年始明けだからか、今日は納品待ちのドライバーがいっぱいだよ。それにしても...

俺はもう納品が終わって出発するところだけだよ

仕事も早い、速水です

サンライズ運送

車輪止め 格納ヨシ!

運転中だけでなく歩行中も前を見る綾瀬!

まさにその通り!

「足元」にこだわることもとても大事ななんだ

そういうえば車輪止めのやり方にも色々あるんですよね

びくっ

速水先輩、先輩も来てたんですか!

次で「車輪止めのこだわり」を解説!

「自社カラーに塗装した」車輪止め装着で  
安全確保・習慣化



離れた場所  
からでも  
目立つので  
装着確認が  
できます!

管理者の皆さんは、ドライバーに「このように車輪止めに装着するのよ」と指導する前に、「なぜ車輪止めに装着するのか」と会社の考え方を踏まえた理由から説明をしましょう。ドライバーが車輪止めに装着する姿は、管理者による「会社の考え方に沿った教育」が反映された「見える成果」なのです。

車輪止め装着を浸透させる一歩として、まずは管理者が社内において離席時に椅子を机の中に入れることを習慣にしてみると良いでしょう。その理由は、椅子を机の中に入れるひと手間は、ドライバーがトラックを停車させて車輪止めに装着する考え方に似ているからです。車輪止めをしないこと、椅子を入れないことの理由が、「すぐに戻ること」や「忙しいから」であることからもおわかりいただけるかと思えます。

社内から始める「車輪止めの装着の習慣」

車輪止めは全員の確実な装着で、  
自社の品質向上に貢献!

- ① 横着をせずに、かがんで手で装着
- ② 外し忘れ時の飛来防止のため、タイヤと平行に装着
- ③ 外し忘れ防止のため、車輪止めとロープでつないだフックをドアノブに掛ける
- ④ 脱着時には「車輪止めヨシ!」と指差呼称確認を実施



車輪止めの  
外し忘れも注意!

マンガ制作: ad-manga.com

ドライバーが車輪止めの正しく装着することを習慣にできれば、いつしか荷主企業さまや配送先さままでの荷役作業時だけでなく、休憩中(高速道路のパーキングエリアやコンビニの駐車場)でも実施できるようになります。個々のドライバーが「いつもできていた」というムラがない状態、すべてのドライバーが「誰でもできていた」とのバラツキがない状態を目指しましょう。

さらには、先輩ドライバーが「動くマニュアル」として見本になることで、次世代の若手ドライバーに車輪止めの正しい装着が定着し、自社における安全文化として根付いていきます。

高柳 勝二 (たかやなぎ かつじ)

株式会社 プロデュープ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデュープ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい、眠くならない、わかりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。

車輪止めは「見える安全」であり「魅せる品質」。

車輪止めは、全員装着で「品質が高い」と評価を獲得。習慣化には、先輩ドライバーが「動くマニュアル」になる。

「足元(車輪止め)のこだわりで  
他社との差が見える!」

車輪止めは「輪止め」や「歯止め」など各社によって呼称が異なります。同様に車輪止めに装着すべき状況や装着の手順に関する社内ルールも各社さまざまです。車輪止めに「なんとなく装着している」ではなく、「正しく装着している」ことがプロドライバーとしての基本。そして、装着に関するルールを社内決めて、教育や常に確認をしていることが、「安全を提供している運送会社」の共通点です。

法律では、車輪止めの装着自体は危険物輸送時以外では定められていません。しかし、法律では決まっていなくてもルール化したり、お客さまから言われる前に取り組んだりすれば、他社との違いを見せる「こだわり」になります。

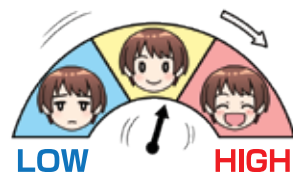
またドライバーの皆さんの中には、車輪止めの装着を面倒に感じる時があるのではないのでしょうか? それは「疲労のサイン」と受け止めましょう。つまり、車輪止めは、ドライバー自身が心身の状態を把握できるバロメーターであり、出先で行うセルフ点呼のような機能もあるのです。装着が面倒と感じれば、「自身が疲れている」と判断して早めに休憩を取りましょう。

「車輪止めの装着状態」は、  
安全状態を示すバロメーター

ドライバーの「心身の状態」

管理者の「熱意と指導力」

運送会社の「安全と品質」



交通事故に関わる  
運転者の生理的及び  
心理的要因及び  
これらへの対処方法

車輪止め装着の有無や方法は、ドライバーの仕事への責任感や会社への満足度など意欲ややりがいを示すバロメーターです。車と同じく人もコンディションが低下すれば、足元から乱れてくるものです。点検ではドライバーがトラックの足元を確認しますが、点呼では管理者がドライバーの足元(履物の形態や履き方)を確認することで、ドライバーの心身の状態を図ることができます。

国土交通省「貨物自動車運送事業者が事業用自動車の運転者に対して行う指導及び監督の指針-交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処方法-」より